

JRS 第82回 日本医学放射線学会総会
JSRT 第79回 日本放射線技術学会総会学術大会
JSMP 第125回 日本医学物理学会学術大会
ITEM 2023 国際医用画像総合展

特別報告

JRC 2023

Be a Game Changer in
Medicine with Radiology

JRC 2023が4月13日(木)～16日(日)の4日間の日程で、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)において現地開催された。放射線医学・診療に関する国内最大級の学術集会は、第82回日本医学放射線学会(JRS)総会、第79回日本放射線技術学会(JSRT)総会学術大会、第125回日本医学物理学会(JSMP)学術大会、2023国際医用画像総合展(ITEM 2023)で構成。テーマには、“Be a Game Changer in Medicine with Radiology”が掲げられた。今回もハイブリッド開催となり、Webは5月23日(火)正午まで、オンデマンド配信でコンテンツを公開。医療のゲームチェンジャーとなるために、参加者が意識を共有する機会となった。

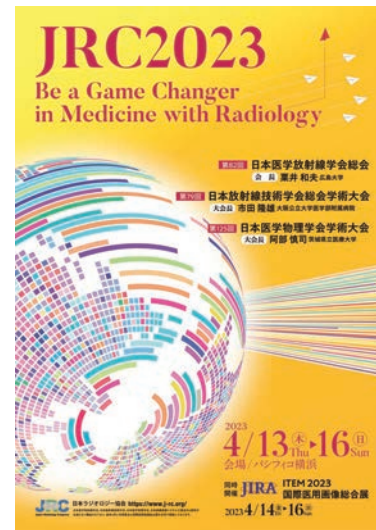


変革期を迎える日本の医療の ゲームチェンジャーになるために

2019年に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、瞬く間に世界に感染が拡大し、世界保健機関（WHO）は2020年1月30日に緊急事態を宣言した。その年のJRC 2020は、東日本大震災のあった2011年以来、2回目のWebのみの開催となった。翌2021年、日本国内の感染状況を踏まえて、現地（パシフィコ横浜）とWebとのハイブリッド開催を実施。しかしながら、医療現場のひっ迫や移動などの行動制限により、現地での参加が困難な人も多かった。JRC 2022もハイブリッド開催となり、前年よりも参加者数も増加し、ITEM 2022には前年比180%となる1万1153人が入場した。その後、COVID-19は第7波、第8波と流行期を繰り返したが、ウイルスの変異やワクチン接種などにより重症化率、致死率が低下したことから、2023年1月27日には5月8日から位置づけを第5類感染症に引き下げることが決定され、さらに政府の対策として3月13日からマスクの着用は個人の判断が基本になるとした。

約3年続いたコロナ禍からアフターコロナへと向かう一方で、来る2024年に日本の医療界は大きな変革期を迎える。2024年4月には医師の労働時間の上限規制が設けられ、働き方改革が本格化。さらに、2024年度は、診療報酬と介護報酬、障害福祉サービス等報酬のトリプル改定が行われる。そして、人口減少・超高齢社会での持続可能な医療提供体制を確保するための第8次医療計画もスタートする。

このような状況の中で開催されたJRC 2023のテーマが、「医療のゲームチェンジャーになる」というメッセージになったことには大きな意義があるだろう。第82回JRS総会の栗井和夫会長（広島大学）は、本総会のホームページで「放射線医学から、現代医学をより良いものへ変革していきたい」、そして「一人一人が医学を変革できる存在になろう」との思いを込めたと説明している。放射線医学・診療は、X線の発見以降、技術革新を積極的に受け入れ、医療の発展の一翼を担ってきた。それは、変革期を迎えた現代の日本の医療においても同じである。アフターコロナ、そして2024年以降の日本の医療をどのように変革するのか、ゲームチェンジャーとなるために、1万4212人が登録した（第82回JRS総会が6983人、第79回JSRT総会学術大会が5272人、第125回JSMP学術大会が921人、非会員・賛助会員が1036人）。



JRC 2023
ポスター

4団体で構成するJRCは 世界に類を見ない組織

JRC 2023の2日目、4月14日13時10分からは、国立大ホールにおいて合同開会式が行われ、一般社団法人日本ラジオロジー協会（JRC）のほか、各学術集会和ITEM 2023を運営する一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）の代表者が登壇した。

最初に挨拶したJRCの富山憲幸代表理事（大阪大学）は、COVID-19の猛威が収まりつつあり、JRC 2023は流行前の規模に戻ったと述べた。そして、JRCについて、JRS、JSRT、JSMP、JIRAの4団体で構成される組織であり、この枠組みは世界に類を見ない、誇れるものであると強調した。富山代表理事は、今回のテーマについても言及し、われわれのめざすべき方向を的確に表していると強調した。また、パンデミックにより途絶えていた海外からの参加者について、今回は多くの参加が見込まれると述べ、国際交流の発展に期待を示した。

次いで、4団体の会長と大会長による挨拶・基調講演が行われた。最初に、JRS総会の栗井会長が登壇し「CT診断の進化と今後の展開」をテーマに、自身が携わってきたCTの画像診断について講演した。栗井会長はCTのハードウェアとソフトウェアの進歩を紹介し、検出器の多列化、画像再構成や被ばく低減、デュアルエネルギーCTの技術と、それが臨床にどのような影響を与えたかを解説した。その上で、栗井



富山憲幸
JRC代表理事



栗井和夫
第82回JRS総会会長



市田隆雄
第79回JSRT総会
学術大会大会長



阿部慎司
第125回JSMP学術大会
大会長



山本章雄
JIRA会長